

私は、議員提出議案第 3 号 鳥取市に鳥取県立美術館の建設を求める決議について、反対の討論をおこないます。

昨年 7 月に県に設置された「鳥取県美術館整備基本構想検討委員会」において、現在、美術館の基本構想の検討がされているところです。そして、マスコミ報道によると、美術館の立地場所の選定については、各市町村に候補地を出させるというやり方のようです。

まず、県民が文化芸術に出会う機会に浴するために、その環境を整えることは大切なことであり、鳥取県の文化芸術の水準を高めていくことに尽力することは県の大きな役割の一つであると十分認識しています。

しかしながら、今の県の進め方はどう考えてもおかしいと思います。

第一に、本市は鳥取県立美術館整備計画が平成 11 年に凍結されて以来、凍結解除と本市への美術館建設を毎年県に対し要望を行ってきています。ところが、各市町村に候補地を出させるということは「凍結解除」ではなく、場所については「白紙」に戻すということです。大体、市道を整備したという過去の経緯があり、毎年要望している本市に対して、場所を「白紙」にするなら、県はきちんと説

明責任を果たすべきではないでしょうか。知事及び県教育委員会は、市道整備の費用負担について見解を示すべきです。それもなしに、昨年の 10 月、11 月頃から各市町村に候補地の打診をしていたということのようですが、非常に失礼なやり方だと思います。

それに、大体、県立美術館をつくるかどうか、いつ決まったのでしょうか？

どうやって決めたのでしょうか？

県民に対する説明責任はどう果たされたのでしょうか？

県民との合意形成はどのように図られたのでしょうか？

どのような美術館にするのか、そのコンセプトはどうなんでしょうか？

建設費用はどのくらい見込んでいるのでしょうか？

運営していくための費用はどのくらいかかるのでしょうか？

県立美術館というけれど、運営手法はどうするのでしょうか？

建設場所となる市町村には何らかの負担が生じるのでしょうか？

疑問な点は多々あります。

それから、検討を始めている新しい美術館の構想については、県立博物館の建物及び設備の老朽化、収蔵庫の狭隘化^{きょうあいか}、駐車場の不足、

県民の作品展等に対応できないなどといった県立博物館の現状や課題が出発点となっています。そして、外部有識者による「現状・課題検討委員会」の報告を受け、県は 27 年 2 月、県政参画電子アンケート制度の会員 485 名を対象にアンケートをおこないました。回答者 401 名の半数以上が「美術分野のための新たな施設整備」と回答したということから、県教育委員会は美術分野を新たに整備する施設、すなわち美術館を整備すると方針を示しました。でも、県教育長自身が、「このアンケートだけでは美術館整備に関し、十分に県民合意が得られたとまでは考えていない」と議会答弁されています。

つまり、何もかもがまだまだこれからの議論という現状です。

このように不透明な中では、県立美術館の本市への誘致を望み、署名された 5 万 3,118 人の市民の思いを逆に裏切ることになるのではないかと危惧します。

まず、県がやるべきことは、県民に情報を公開し、議論を重ね、合意形成を図ることではないでしょうか。そのことが不十分なままで、候補地を出させるというやり方は明らかに県民と市町村を惑わせるだけです。

そして、鳥取市議会として決議を上げなくてはという気持ちもわ

からなくはありませんが、このまま決議を上げることは、今の県のおかしな進め方を認めることになってしまいます。それでは、鳥取市議会として市民に対する説明責任が果たせないのではないのでしょうか。

文化芸術の分野は、費用対効果を求めても無理があります。行政としての余程の思いがないと、簡単に予算が削られる分野だと思います。新たな美術館をつくり、維持していこうとすれば相当の覚悟が必要です。その覚悟が本当に県にあるのでしょうか。そのことも含めて、そもそもの議論をしっかりと県においてはやっていただきたいと思います。中途半端な状態で市民を巻き込まないでいただきたいという県への抗議も含め、この決議を上げることは賢明ではないと考えます。

以上、反対の討論といたします。